

令和8年度 東京都立練馬工科高等学校 学校経営計画

「AIには代替されにくい技能や技術」が重視されつつある現代社会において、本校は工科高校として、工業と社会の発展に寄与することのできる「新時代のものづくり産業を支える実践的な技術・技能を持つ人材」を育成します。また、東京の環境要因から、従来の工業科のスタイルに固執せず、産学連携やグローバル教育、探究的学習を重視し、生徒が物事を複合的に考え、幅広い視点からものづくりに向き合う資質・能力の向上を目指す工科高校として、経営上の特長を確立させていきます。

1 令和8年度重点目標

～都立工科高校のプレゼンスを追求する～

共通性の確保	各教科における学習指導要領の着実な実施
職業人の育成	産学連携による実践的なキャリア教育の推進
社会性の醸成	海外研修によるグローバルマインドの育成
多様性の対応	「ユニバーサルデザイン」スタンダード化の取組
学校の魅力化	「Neo 工科高校改革プロジェクト」の取組

2 目指す学校

スクール ミッション

「挨拶を大事にして職業人としての適切な行動ができる人材の育成、働くために必要な学力の定着」を教育目標とし、基礎的な工業技術を身に付け、インターンシップや国際理解教育を通して将来を考え、何事にも誠実に取り組み、人権尊重の精神と多文化共生に基づく職業人としての行動ができる人材を育成します。

スクール ポリシー

【**グラデュエーション・ポリシー**】 育成を目指す資質・能力に関する指針

- 社会的・職業的自立に必要な基本的な学力
- 専門知識や技能習得の基盤となる工業に関する基本的な知識・技術力
- 社会人としてのマナー・態度
- 互いを尊重し適切にコミュニケーションが取れる力

【**カリキュラム・ポリシー**】 教育課程の編成及び実施に関する指針

- 基礎的・基本的な学力の定着と向上
- 基本的な技術力の習得
- コミュニケーション能力の向上
- 情報技術の習得

【**アドミッション・ポリシー**】 入学者の受入れに関する指針

- 学ぶ意欲と規範意識を持ち、高い人間性を育もうとする生徒
- 自己の能力を高め、切磋琢磨しながら社会に有為となる生徒
- 国際交流に興味・関心を持つ生徒

3 中期的目標と方策

- 生徒の多様な学習ニーズに応じた教育課程の編成・実施、柔軟で質の高い学びの提供
- 生徒が自己を理解し、自己決定・自己調整ができる力の育成
- 生徒が自己の問いを立て、協働し、解決策を見出し、行動できる力の育成
- 生徒が自己の在り方生き方を考え、当事者として社会に主体的に参加する力の育成
- 工業的視点での見方・考え方を働かせる力の育成

重点目標と方策

○ 各教科における学習指導要領の着実な実施

全ての生徒が必要な資質・能力を共通して身に付けるため、各教科が主体的・対話的で深い学びの視点からの授業展開、探究的活動を指導の中に位置付け、各教科相互間の関連を持ちつつ指導上の共通性の確保と学びを充実させる。また、生涯にわたって生きる力を育むため、学びの目的を共有し、授業の創意工夫と教材開発に取り組む。「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」の総合的な向上を目指すとともに、生徒の学力の変化を考察し主体的な学びに導く。

○ 産学連携による実践的なキャリア教育の推進

東京商工会議所、東京都中小企業家同友会、ゼネラルコントラクター等の仲介を受け、関連企業との産学連携を推進する。課題解決型学習、探究的学習、インターンシップを通して、ものづくりに関する興味・関心を高め関連する技能に挑戦させるなど、工科高校で学ぶメリットを最大限発揮できるキャリア教育に取り組む。また、運輸系企業志望生徒を対象とした「高校生自動車運転免許取得奨励事業」を通して、地域社会のインフラを担う職業人の育成など、キャリアビジョンの形成を深める。

○ 海外研修によるグローバルマインドの育成

令和5年度以降、アラブ首長国連邦、英国に生徒代表団を派遣したことにより、参加した生徒のグローバル感覚は大きく変容した。工科高校生としての工業的視点や多文化共生の意義を知り、生徒がグローバルな視野を広げる手段として、生徒海外派遣研修の活用や学校独自の姉妹校スタディツアーを計画する。国際教育の基盤となる英語力や国内外の課題解決に向けた創造的、論理的な思考力を深めるなど、教科横断的にグローバルマインドを育成する。

○ 「ユニバーサルデザイン」のスタンダード化

生徒一人一人の個性に応じて多様な可能性を伸ばす学習機会の確保に向けて、生徒の誰もが安心して落ち着いて授業参画ができる環境づくりを目指すため、学習のベースとなる教室環境をユニバーサルデザインの観点から構造化する。学校におけるユニバーサルデザインの基本的な柱として、教室環境のユニバーサルデザイン化、授業のユニバーサルデザイン化、人的なユニバーサルデザイン化を網羅した「練馬工科高校ユニバーサルデザインスタンダード（仮称）」を定める。

○ 「Neo 工科高校改革プロジェクト」の取組

東京都教育委員会が工科高校改革の一環として推進した「Next Kogyo START Proect」が一巡する中で、社会構造は一層のDX化が進展し、先端的かつ質の高い学習機会の確保が不可欠である。これらの課題解決への足掛かりとして、社会のニーズや技術の最新動向を直接体感する機会となる「先端技術体験事業企業視察」等を活用し、国内有数の先端技術を有する企業や研究施設等への訪問により、生徒の好奇心に触れ、ものづくりや技術の進歩に触れながら、考える力、学び続ける力、創造する力を高めていく。

4 学校経営の基本方針

- ① 基礎・発展的学力とともに、ものづくり人材としての基盤を着実に育む。
- ① 基礎力診断テストの結果を分析し、学力層の変化を追跡し、授業づくりに生かす。

- ② 生活指導は学校組織全体で取り組み、「東京都子ども基本条例」を遵守し、ルールを守る態度を育て、社会性や規範意識を向上させる。
- ③ 企業、上級学校等の関係機関との連携により、生徒の職業観を育て、自己実現に資する教育活動を堅持する。
- ④ ものづくり教育、体験的学習を通して、技能の習得及び各種資格の取得を推進する。
- ⑤ エンカレッジ・スクールとしての取組
 - 1 学年一部教科 30 分授業、習熟度・少人数指導
基礎・基本を確実に習得させ、授業を通して、達成感や成就感を生徒に体得させる。
 - 学力検査によらずに学ぶ意欲と熱意を重視
調査書、自己PRカード、面接、作文等による入学者選抜
定期考査によらない学習評価
提出物や授業単元毎に行う小テストなどによる多様かつ多面的な評価
 - 生徒が集中して取り組める授業展開
1 学年「国語」「数学」「英語」各科目における 30 分授業の編成
 - 習熟度別・少人数授業の実施
「国語」「数学」「英語」の学習進度に応じたきめ細かい授業の展開
 - 体験学習や選択授業の展開
興味・関心のある講座の選択や体験学習、ボランティア活動の展開
 - 1 学年 2 人担任制
生徒を大切に担任のサポート
 - 生活指導の徹底
落ち着きある学習環境と校内秩序の醸成

5 今年度の取組目標と方策

教育目標の取組と方策

(1) 学習指導

確かな学力の育成、幅広い知識と教養、専門的能力・職業的実践力の育成を視野に、個別最適な学びと協働的な学びの充実に向け、探究型学習による意図的な学習指導の充実を目指す。また、各教科・科目を担当する教員には、生徒一人ひとりの学習状況を把握し、その伸長状況を客観的に記録し、生徒にフィードバックさせていく。

- 基礎的・基本的な学力を確実に定着させ、思考力、判断力、表現力の基盤となり得る読解力を磨くことを重点に、段階的到達目標による観点別学習により、個に応じた学びの伸長・発展を重視する。
- 生徒の職業人としての可能性などを広げさせ、自己肯定感と自己有用感を育む。
- 資格取得指導を充実させ、多様な分野における技能・技術の定着を目指す。
- 生徒一人一台端末、ICT機器を確実に活用し、効果的な学習指導を実践する。
- 小テストをきめ細かく実施し、学力の定着を図るとともに、評価においては知識量や理解度のみならず、授業への参加状況や学習の過程も重視する。
- 生徒が自ら問題点や課題を発見し、解決方法を探索するなど、探究的学習による課題解決型学習を意識した授業を実践する。
- 通級等を有効的に活用し、特別支援教育の理解啓発及び取組を組織的に展開する。
- 学校図書館の有効活用から読書活動を充実させる。

(2) 進路指導

「東京都教育ビジョン（第5次）」「2050東京戦略」等に基づく、生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向けた資質・能力の育成とキャリア教育の充実を重視する。また、インターンシップや産業界と連携した業界研究、ものづくり学習、探究的学習により、実践的な教育を通じて職業観・勤労観の育成を目指す。

- 学校設定教科・科目「キャリアガイダンス」の体系化を継続する。
- 進路指導に関する各種情報のデータベース化、一層の電子化を推進する。

- 引き続き、学校法人小山学園との連携を深め教育課程編成上の連携を行う。また、デザイン・工芸系専門学校との連携を模索する。

(3) 生活指導

スクール・ポリシーを踏まえた指導、「都立高校生活指導指針」による生活指導の取組を推進する。また、安全教育指導を重視し、令和8年4月1日改正道路交通法に伴う自転車運転上のモラル向上、ヘルメット着用指導、SNSの正しい利用を継続指導するとともに、スクールカウンセラーの関与による中途退学の未然防止への相談機能の充実、いじめ防止に向けた迅速かつ組織的な対応、自殺対策基本法を踏まえた相談先の周知等を着実に図る。

- 「東京都子ども基本条例」に基づく生徒参画型の生活指導を展開する。
- 人権教育を基軸とした生活指導を徹底し、特にいじめの未然防止・早期発見に努め、年3回の調査を実施する。必要に応じて「学校いじめ対策委員会」を開催し、迅速かつ誠実に解決できる学校づくりを推進する。
- 「自殺対策基本法」「自殺総合対策大綱」、生徒のSOSの出し方等の健全育成に資する教育を推進する。
- 社会生活において求められるルールやマナーを習得させ、自転車使用時のヘルメット着用指導や礼節を重んじる態度を育てる。
- 生徒会主体による美化・リサイクル運動等、環境教育の推進を学校全体で取り組む。

(4) 特別活動・部活動

「東京グローバル人材育成指針」に基づく国際理解教育の推進及びグローバル人材を意図的に育成する。異文化理解を促し、幅広い柔軟な思考や視野を広げさせるグローバルマインドセットを養わせる。

- 生徒会活動、学校行事、委員会活動等を通して、リーダーとなり得る生徒の育成を目指し、地域社会に還元する。
- 特別活動、部活動は、活動指針及び年間活動計画に基づき、生徒、教職員の負担に配慮した現状に即した運営を図る。
- 生徒海外派遣研修、スタディツアーの機会を通じて、グローバルマインドを備えた人材を育成する。

(5) 美化・健康づくり

「TOKYO ACTIVE PLAN for students」「総合的な子供の基礎体力向上方策」を踏まえ、生徒の体力向上及び健康の保持増進に努める。

- 共感的理解と受容的態度を基本とした生徒理解の充実を目指し、情報交換会等による情報の共有化を図る。
- 合理的配慮が必要な生徒に対して教育支援委員会を活用して組織的な対応を行う。
- 学校保健委員会を定期的に開催し、心と体の健康づくりを推進する。
- 薬物乱用防止講演会や救急講習等を定期的に実施する。

(6) 募集・広報活動

「都立工科高校ドリーム・フェスタ」「都立高校広報EXPO」等への参加を通して、工科高校の魅力を発信する。

- ホームページによる発信力を一層高める。
- 授業公開、体験入学、学校見学会、学校説明会を計画的に実施する。学校説明会では説明内容を精選し、中学生、保護者がもとめる情報の提供と理解促進に努める。
- 外部会場の説明会に可能な限り参加し、工科高校の特色の発信に努める。

(7) 学校経営・組織体制

「学校における働き方改革推進プラン」に基づく教職員のライフ・ワーク・バランスの取組、学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラムに基づく働き方改革を推進する。また、教育公務員として信用失墜行為をはじめとする服務事故の根絶に向けた啓発を図る。

- 「東京都学校教育情報化推進計画」等に基づく校務のデジタル化を着実に推進する。
- 組織マネジメントの視点から、職層に応じた学校運営の参画、業務の進行管理を適切に行い業務の効率化を導き、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を

目指す。

- 教育公務員及び東京都職員としての高い使命感を持ち、生徒目線、都民目線で職務遂行にあたる教職員を育成するとともに、服務事故の根絶を徹底させる。
- 学校評価を踏まえた課題を明確にし、課題に対する共通認識を持ち、組織的に改善に取り組む。
- 学習環境等、真に生徒の学校生活の向上を目的とした予算編成を行い、計画的な執行及び管理を適切に行う。

数値目標

工科高校としての取組に対する肯定的評価	85%以上
エンカレッジ・スクールとしての取組に関する肯定的評価	80%以上
情報端末の授業への活用に関する肯定的評価	80%以上
キャリアガイダンス等進路指導の充実に関する肯定的評価	80%以上
上級学校、企業連携の取組に関する肯定的評価	80%以上
規範意識の醸成に関する肯定的評価	85%以上
生活指導の取組に対する肯定的評価	75%以上
教育相談体制に関する肯定的評価	70%以上
推薦入学者選抜応募倍率	1.2倍以上
一般入学者選抜応募倍率	1.0倍以上